

アルミ輸入は内需低迷で減少

為替予想レンジは一一九〇～一二三円台

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

七月のADP全米雇用リポートで、非農業部門の雇用者数(政府部門を除く)は前月からの増加幅が市場予想より小さかった。株式市場では米連邦準備理事会(FRB)による利上げの開始や利上げペースが遅くなるとの見方が広がるなどのプラス材料もあったが、七月の中国製造PMIは五〇・〇に低下、予想の五〇・二を下回ったこと、アトランタ連銀のロックハート総裁が九月の利上げを示唆したことなどのマイナス材料を受けてLMEアルミ相場はDOWN、八月十五日時点で、五四六ドル(現物後場買い)と月初価格から四九ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、中国の三日連続利下げからの景気後退懸念や七月開催分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨を受け、年内の利上げ観測が改めて出たなどのマイナス材料もあったが、米商務省が発表した四〇六月期の米実質国内総生産(GDP)改定値は前期比年率三・七%増と速報段階(二・三%増)から大幅に上方修正された。市場予想(三・三%増)を上回り、米景気の回復基調が改めて意識されたこと事ことからUP、九月二日現在でLMEアルミ相場(現物後場)は一、五九四ドルと後半スタート価格から五七・五ドルUPしてのスタートとなった。

◆月間のドル／円レート(TTS)

一二四・八四～一二三・六五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比五・九%減の八九万四、八四六台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比二・三%増の二万一、三〇三台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比七・四%増の七万八、二六三戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば輸出はドル・新地金が前年比六二・八%減の五四七、二次合金が三・二%減の一、四六九七、前月比でスクラップが三・五%減の一、〇〇五七、アルミ缶が四・一%増の四、六六五七。

輸入

輸入は新地金が前年比七八・九%減の一、二二七、三三〇七、二次合金が四・三%減の八万五、〇五七七、スクラップが三・七%減の七六二七、合

金スクラップは四八・九%減の二、九六七七。

■前月の国内指標

日本アルミウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・八%減の一八万、四三四七。

日本アルミウム協会発表のアルミウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比三・六%減の七万〇、二二九七であった。

■概況

【自動車生産】

七月の四輪車生産台数は八四万一、八二二台で、前年同月の八九万四、八四六台に比べて五万三、〇三四台(五・九%の減少)となり、一三カ月連続で前年同月を下回った。

七月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。乗用車七〇万七、九一一台で四万九、六二二台(六・五%の減少)となり、一三カ月連続のマイナス。このうち普通車は四四万五、四四四台で九、〇八六台(二・一%の増加)、小型四輪車は一四万二、八九六台で一七七、八五五台(一一・一%)の減少、軽四輪車は一、一九九、五七一(四万〇、八四三台(二・五%の減少)。

七月の国内需要は四二万五、〇九三台で、前年同月比七・六%の減少であった。うち乗用車三、五五五、八九二台で前年同月比九・一%の減少、トラック六万八、一四一台で同〇・四%の増加、バス一、〇六〇台で同三・三%の増加。

輸出は前年同月比〇・四%の増加(実績)。

【自動車販売】

七月の国内自動車販売台数(軽除く)は二二万一、三〇三台で前年比二・三%増と、一カ月ぶり再びプラス。うち、乗用車一・七%増、貨物五・五%増、バス六・一%増。

【住宅着工数】

平成二十七年七月の住宅着工戸数は七万八、二六三戸で、前年同月比で七・四%増となった。また、季節調整済年率換算値では九一・四万戸(前月比一一・五%減)となった。

(持家)

前年同月比では三カ月連続の増加(前年同月比八・〇%増、季節調整値の前月比では六・〇%減)。

(貸家)

前年同月比では三カ月連続の増加(前年同月比一八・七%増、季節調整値の前月比では二・〇%減)。

(分譲住宅)

前年同月比では四カ月ぶりの減少(前年同月比九・〇%減、季節調整値の前月比では三・七%減)。(八面へ続く)

(四面より続く)
(分譲マンション)

前年同月比では四カ月ぶりの減少(前年同月比一七・六%減)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では一五カ月連続の減少(前年同月比二・七%減)。

【アルミウム2次合金・同合金地金等生産実績】

前年比三・六%減の七万〇、二九七。一〇カ月連続マイナス。出荷は三・六%減の七万一、〇二一で一八カ月連続マイナス。うち、出荷先別では鋳物三・七%減、ダイカスト四・八%減、板一・八%増、押出四六・二%増、鉄鋼一八・九%減、合金地金メーカ一四・二%減。

【アルミ圧延・押出品生産数】

〇・八%減と五カ月連続マイナスの一八万二、四三四。

【輸出】アルミ新地金が前年比六二・八%減の五四t、二次合金が三・二%減の一、四六九t、スクラップが三一・五%減の一、〇〇五t、アルミ缶が前月比四一・九%増の四、六六五t。

【輸入】アルミ新地金が前年比二六・四%減の一、二二七、三六〇t、二次合金が四・三%減の八万五、〇五七t、スクラップが三・七%減の七六二ト、合金スクラップが四八・九%減の二、九六七t。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き大減少の五・九%減。八月の国内販売台数が前年比二・三%増、生産が一三カ月連続マイナスではあるが販売が一カ月ぶりプラス。

生産がついに一年間以上前年割れとなったが販売の方が一カ月ぶりにプラス。生産増に繋がるか今後の動向に期待。

・新設住宅着工数は、八万八、一一八戸で、前年同月比で一六・三%増となった。

また、季節調整済年率換算値では一〇三、三万戸(前月比一三・四%増)となった。利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家で増、分譲住宅で減となった。季節調整値については、前月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となった。住宅着工の動向については、このところ前年同月比で五カ月連続の増加となっており、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。反動減の影響が大きかった持家は、前年同月比で三カ月連続の増加となった。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数は、主力の押出・建設部門の悪化を受けて減少。今後の住宅回復に期待。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、自動車系の悪化を受けて減少。自動車が増減する中、住宅の回復に期待。

・輸出はLMEアルミの大幅下落から二次合金、スクラップ共に減。地金は生産調整を受けて大幅減少。

・輸入は地金、合金、スクラップ全てLME価格下落、内需の低迷から減少。

【スクラップ需給予想】

先月に続き、流通在庫はここ最近の急落を受けて、問屋に塩漬け玉があるものの、価格が合わない事や生産減によるスクラップ発生難を受けて、置き場、資金面から急ぎで売る必要性ない。一方、メーカは自動車販売が増加しているため、必要量の確保ができてない所もあり在庫は薄くなるため、需給は引き締まるとの予測。

【価格・為替予想】

今月は、中国の株価対策及び景気対策、そして米国の利上げ問題に左右される。

中国の株価および景気対策に関しては当局は先月に続きもはや自由経済とは思えないほどの株価策をなすり付け、一時的に反発はしたものの、やはり有効な策とは言えず。また実需を生み出す景気対策も行っていないことから更なる下落をするのではないかと。

米利上げ時期に関しては当初予定の九月説は、米経済指標は堅調ではあるが、中国バブル崩壊の機運が高まる中、今行う可能性は低いのではないかと。

それらを踏まえた八月のアルミ価格は、中国当局が株価及び景気対策に関しての何かしらの表明、上海株の下落を落着かせ、米国が今月の利上げを行わなかった場合、八月高値一段高の一、七〇〇ドルを予測。いずれの場合は一、五五〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合、もう一段安値の一、四〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて九月説が台頭していたが中国バブル崩壊の機運が高まる中今月行われる可能性は低いのではないかと。それらを踏まえ予測は、上値はアメリカが九月の利上げを行った場合、中国バブル崩壊が早まる事や新興国からの資金吸い上げ、それに伴うドル高の加速判断から大幅円高の一・九円台を予測。下値は利上げを行わなかった場合ほぼ現状と変化なしとの判断から一二二円台。

メーカースクラップ購入価格は〇・五円安と予測している。